

第4回川口駅周辺在り方検討委員会 会議録

日 時 令和8年1月16日（金） 開 会 14時00分
閉 会 15時45分

会 場 川口市役所第一本庁舎6階 601会議室

出席者 【委員】

◎久保田尚 ○樋野公宏 田中宣充 堀彰光
白井慎一 筒井毅 神保成究 松本章宏
栗原明宏 松本敦 江原李佳 阿部康巳
佐藤貴彦 大沼伸康
◎座長 ○副座長

【オブザーバー】

田嶋靖夫 石川修 竹内秀行

事務局 【川口市】

都市計画部次長兼都市計画課長 鈴木 巧
都市計画課施設計画係長 川合 翔二

[議事要旨]

- (1) これまでの委員会および今回委員会に先立ち事前にいただいた
主なご意見について
- (2) 川口駅周辺まちづくり指針（素案）について

【説明】

事務局より、資料1および資料2に基づき説明を行った。

【質疑応答・意見】

・座長

資料1のペDESTリアンデッキに関するご質問（P4）の対応について、ペDESTリアンデッキと樹モールの関係が資料2の取組4（P19）などで入っていない。また、資料2の取組1（P21, 22）でデッキ上の快適性が書かれており、是非デッキ上に店舗を作るなどの取組は行っていただきたいが、デッキと地上の

関係性が見えてこない。資料2の取組1（P21）の左の図の範囲を少なくとも東口については、樹モールまで入れたらどうか。

さらに、樹モールでは、道の真ん中を歩いている人がおり、車との錯綜関係がしばしば見られる。樹モール自体をもっと歩行者向けに寄っていいのではないかと思う。駅の改修に合わせて樹モールをどうするのかについて今後議論することを書いていただきたい。

- ・事務局

ご指摘の通り、ペDESTリアンデッキと樹モールの関係は回遊性の柱の一つであり、非常に重要である。樹モール等との関係性等について、どこまで載せられるか考えたい。

- ・委員

回遊動線について、樹モール含めて川口元郷駅との関連を今後考慮することを盛り込んでいただけたら、まちづくりの一環を担う人間としても今後検討の余地があると考えている。

- ・副座長

「ウォークابل」が重要なキーワードであるのに対して、指針の範囲が狭い。指針の範囲のみで検討するのではなく、まちづくりビジョンの範囲を「ウォークابل」にするためには指針の範囲がどうあるべきかを議論する必要がある。まちづくりビジョンの範囲を資料2の対象範囲（P5）辺りに再掲し、樹モールとの関係性を描くのがよいと思う。

資料2のSWOT分析（P12）はすごく分かりやすい。この「T：脅威」に気候変動に伴う猛暑やゲリラ豪雨等を書き加えてよいと思う。

また、将来が読めない今、資料2の今後の進め方（P31）が将来の社会情勢等との齟齬が生じた場合、どのように物事を進めていくのか。指針の訂正等の考えについて教えていただきたい。

- ・事務局

樹モールとの関係性や気候変動については書き方を検討したい。

今後の進展で指針との齟齬が生じた際の進め方について、資料2には、今後考慮すべき点として柔軟性の確保（P29）を組み込んでいるため、その時々々の社会情勢に応じた見直しは必要と考えている。見直し等については、引き続き考えていきたい。

- ・委員

ペDESTリアンデッキについて、デッキの降りる場所により流れが変わってくると思う。今後はペDESTリアンデッキの降りる方向や方向を示す標識やサインなどによって、動線がどう変わるかについて議論できるとよい。

樹モールプラザや、ららテラスの開業により歩行量が増える効果がある。ここに市庁舎や公民館のイベント等を巻き込むことで、多くの集客を見込めると思う。何かを作って発展するだけでなく、既存のものも活かしていただきたい。

- ・副市長

川口駅東口や西口の情報板は、建物の更新に伴い、シールで張替えを行っていたが、今後は情報板がデジタル化になると思う。デジタルの活用は費用を抑えて情報更新ができるため、デジタル化は大きな効果があると思う。

ペDESTリアンデッキは完成形ではなく、横断歩道を使わないと移動ができない状態になっている。ペDESTリアンデッキの配置場所や案内の在り方について、再検討していきたい。

- ・委員

資料2の構成で、3つの戦略(P16)を基にエリアごとの取組(P18)があり、取組をさらに具体化(P19)をしている部分がよいと思う。「ウォークブル」や「回遊性」などを4つのエリアに分けているが、エリアごとで内容が切れないように、どう連動させるかの具体的な取組内容(P19)で見えてこない。エリアと離れたまちを繋ぐ視点を取り込んでいただきたい。

- ・事務局

ご指摘いただいた視点は非常に重要である。それぞれの取組を一体的に考えていかないといけない。新しい視点を盛り込むのは難しいと思うが、ご指摘を踏まえて取組を進める上で留意したい。

- ・委員

交通結節点が非常に重要なポイントと思う。アプリの開発等で、川口駅に降りれば目的地に最短時間で着けるということが、経済的波及効果に繋がるのではないかと思う。

- ・委員

歩きやすい環境を作らないと、樹モールやその先まで行かないと思う。商業施設のように、まちの奥までお客様を呼び込み、皆様が楽しめる構造を作るの

もよいと思う。

駅前のサインについて、テナントの入れ替わりがある度シールで交換の対応をしていたが、シールが多くなると見栄えがよくない。また、商業施設の看板は取り付け費用や取り除く費用が大きい。デジタルサイネージは他の宣伝もできるため、今後はデジタル化の未来になると思う。

このように、その時々状況によって変化するため、成長性のあるプランを今後も見ていきたいと思う。

・委員

川口市はブランディングを無理やり打ち出すよりも、なんでもあることがまちの特徴だと感じる。今後、新しくアップデートできるものをその時代に合わせることを川口市というようにしたらどうか。課題や新しいものに対して挑戦していく形で整備ができるとよいと思う。

・委員

樹モール商店街は、特に土日の人通りが多いため、交通の分離が大事だと思う。この中で駅前広場を整備し、安全が確保されることで、様々な商店街へ広がる。まずは、川口駅前広場の自家用車・公共交通・歩行者・自転車等を整理して、安全な駅前広場にしていきたい。

・委員

他の駅のまちづくりでは、多くある取組が一つにまとまらず繋がらないことがある。情報や賑わい、防災などの観点も含めて、一体的に考えていくことが非常に大事である。

・委員

樹モールを歩くと、後ろから車のクラクションを鳴らされた。樹モールは、人と車が錯綜している。

川口駅は京浜東北線沿線の中でも非常に重要な駅ターミナルと捉えており、ポテンシャルもあるので、重要な駅ターミナルとして育ててほしい。

・オブザーバー

樹モール商店街は歴史があり、歩いていて心地が良いと感じる。樹モールプラザの開業で歩行者が増えたことで、川口駅周辺には可能性があると感じた。ビジョンの中の核となる駅周辺の公共施設等を整備していくことが今回策定する指針の役割と認識している。エリアプラットフォームでビジョンに掲

げるエリアまでを引き続き議論できるとよい。

駅まち空間の中で伸びしろを感じているのは西公園である。駅の機能強化で東西の繋がりがより太くなれば、樹モール商店街を中心とした商業と、西側の文化的な要素が一体となり、川口駅周辺の将来への良い投資になると思う。

- オブザーバー

駅まち空間を核として、ウォークブルや回遊性をどのように周辺に広げていくのか。指針の策定後もこの観点を持って進めていく必要があると改めて思った。上野東京ラインが川口駅に停まることで、川口市だけでなく周辺市町村や東京都を含めてどのように変わっていくのかを考える必要がある。

指針の策定が目的ではなく、指針に沿ってどのように実現していくのかが大切だと思う。

- 副座長

不透明な社会情勢に対してどう対応するのかについて、継続的にエリアマネジメントの中で議論ができるとよいと思う。

今後、取組を事業に落としていくにつれて、一つ一つの事業になっていくが、それらの事業を統括的に広域的な視点で見えていく必要がある。私は川口市の都市計画にも関わっているので、この視点で貢献したいと思う。

- 座長

川口駅周辺在り方検討委員会を通して、地元の商工関係の方々の発言は前向きなものが多く、素晴らしいと感じた。今後はエリアプラットフォームのような民間主導の場になっても十分に検討を進めていけると思う。今後、駅の改修の話が進むことでデッキ等のハード整備に集中してしまうが、樹モール等の周辺との関係について、常に民の立場から市に投げかけ続けていくことは非常に重要である。今の段階でプラットフォームを作ることが重要だと思う。

閉 会

事務局から、閉会が宣言された。